

Q1：フリーポート火災損失795億円について、どのような前提で見通しに織り込んだのか。

A1：フリーポート社が6月30日に公表した「10月上旬での部分再開、フル稼働は年末を目標とする」というものを前提に織り込んでいる。

Q2：今回のフリーポート火災での損失を受けて、今後、大阪ガスのLNGの調達・販売戦略の方向性は変わるのか？

A2：当社のLNGの調達・販売戦略は、これまでもガスの安定供給を最優先に考え、調達先等の分散化に取り組んできた。これからも、ガスの安定供給と当社の需給バランス等を踏まえた調達・販売を進めていきたい。

Q3：フリーポート液化基地の復旧状況について、最新情報があれば教えてほしい。

A3：現状では6月30日に発表されたものからの更新はなく、10月上旬からの部分再開に向けて復旧は進められていると考えている。

Q4：今回の通期見通しの修正において、海外エネルギーでは、フリーポート火災による損失が▲145億円あるものの、前回見通し差+100億円になるまで押し返している。減益影響を押し返している要因は何か。

A4：1つにはOsaka Gas Australiaで60億円の増益を織込んでおり、これは油価想定を変えた影響である。また、Osaka Gas USAでも+95億円の増益を織込んでいる。ここには、フリーポート火災影響▲145億円の一部を織込んでいるにも関わらず増益になっているが、これはサビン・シェールガスプロジェクトの影響である。ガス価格の上昇と生産量増により増益になっている。このように、海外では油価等の前提変更とサビン・シェールガスプロジェクトの好調により、フリーポート火災による減益を押し戻している。

注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。